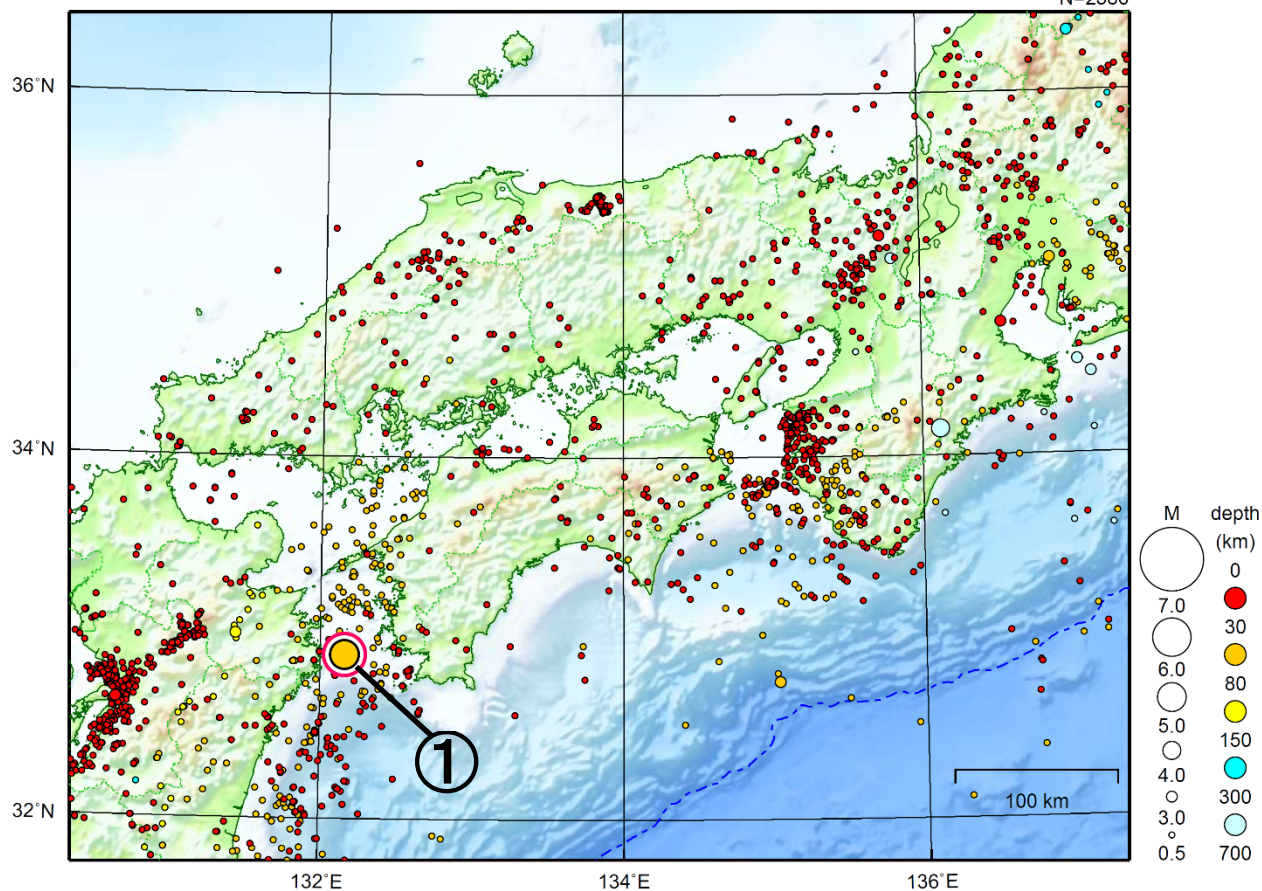


近畿・中国・四国地方

2018/02/01 00:00 ~ 2018/02/28 24:00

N=2386



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

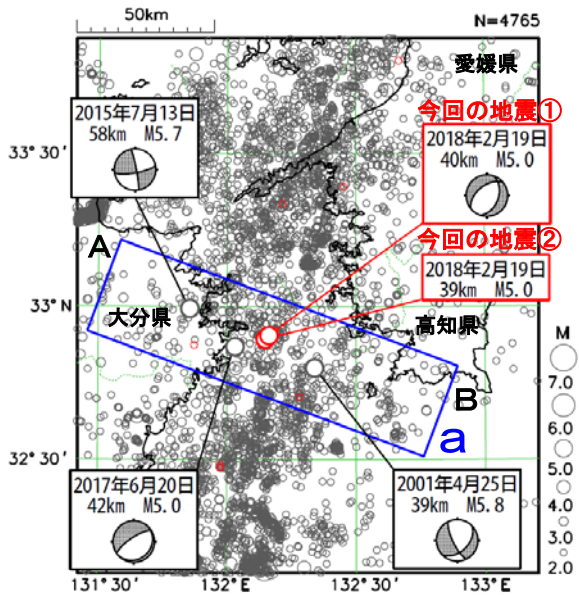
- ① 2月19日に豊後水道でM5.0の地震（最大震度4※）が発生した。その後、ほぼ同時に、ほぼ同じ場所でM5.0の地震が発生した。

※これら2つの地震は、ほぼ同時刻に、ほぼ同じ場所で発生したため、震度の分離ができない。

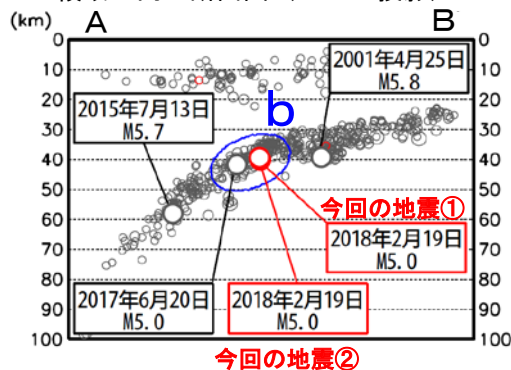
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

2月19日 豊後水道の地震

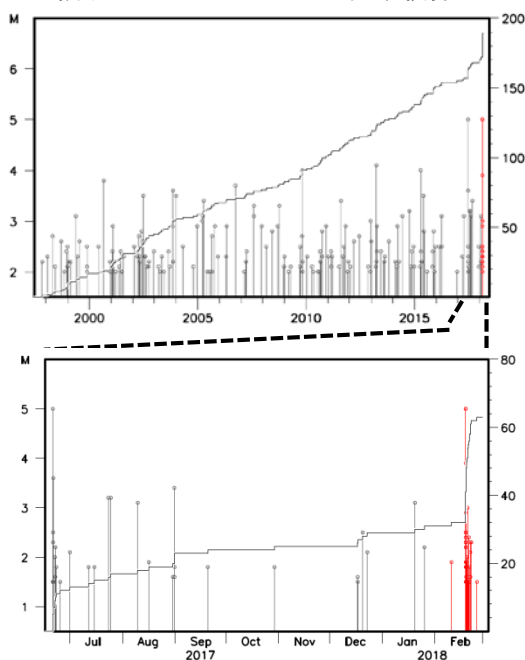
震央分布図
(1997年10月1日～2018年2月28日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$
2018年2月の地震を○で表示)



領域a内の断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図



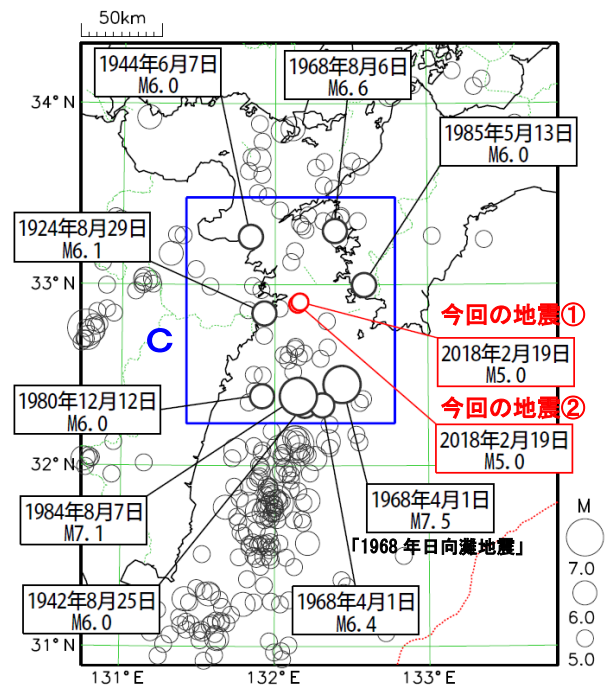
2018年2月19日03時31分に豊後水道の深さ40kmでM5.0の地震 (最大震度4) が発生した (今回の地震①)。この地震の約4秒後、ほぼ同じ場所でもM5.0の地震が発生した (今回の地震②)。最初の地震の発震機構は北西-南東方向に張力軸を持つ正断層型で、いずれもフィリピン海プレートの内部で発生した。今回の地震①②の発生後、比較的地震活動が活発になっている。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、定常的に地震活動がみられる場所であり、2017年6月20日には、M5.0の地震 (最大震度5強) が発生している。

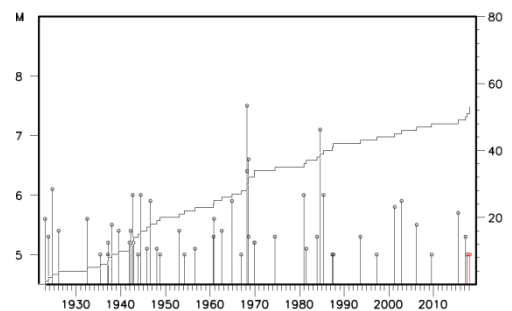
1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0以上の地震が時々発生している。「1968年日向灘地震」 (M7.5、最大震度5) では、負傷者57人、住家被害7,423棟などの被害が生じ、大分県蒲江で240cm (最大全振幅)、高知県土佐清水で236cm (最大全振幅) などの津波を観測した (「日本被害地震総覧」による)。

震央分布図

(1923年1月1日～2018年2月28日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$
2018年2月の地震を○で表示)



領域c内のM-T図及び回数積算図



気象庁作成